

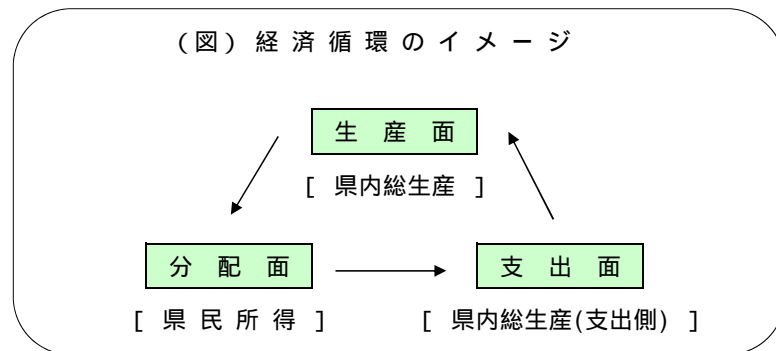
(1) 県民経済計算とは

県民経済計算とは、地域の経済活動を包括的にあらかず統計であり、主に経済活動を次のような循環として把握しています。

[経済の循環と三面等価]

経済活動によって生産された付加価値は、労働者や企業に賃金や利潤として分配され、分配された所得は消費や投資として支出されます。

この経済循環は、下図のように生産面・分配面・支出面といった3つの側面から成り立っています。これらは同一の付加価値を異なる側面から捉えたものであり、理論上は等しくなります。このことを「三面等価」といいます。



(2) 県民経済計算から分かること

生産面、分配面、支出面を見ることによって、次のようなことが分かります。

生産面

生産活動によって生み出された付加価値は、経済活動別に県内総生産として把握されます。

生産面からみた県内総生産の大まかなイメージは、以下のようなものです。

$$\text{県内総生産} = \text{出荷額} \cdot \text{売上高} - \text{原材料} \cdot \text{光熱費}$$

この県内総生産から、本県産業の推移が分かるほか、他地域との比較をおこなうことで、本県産業の特徴が分かります。

経済成長率 ... 県内総生産の対前年度増加率のことをいいます。

名目値と実質値 ... 県内総生産には、「名目値」と「実質値」が存在します。

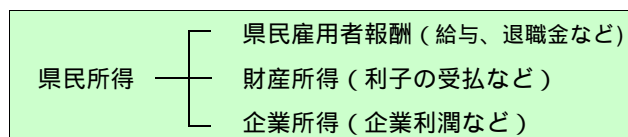
名目値はその年度の市場価格で表示したものであるのに対し、実質値は物価変動による影響を除いて表示したものです。

名目経済成長率とは、名目県内総生産の対前年度増加率のことであり、実質経済成長率とは、実質県内総生産の対前年度増加率のことをいいます。

分 配 面

県内総生産（生産活動の結果生じた付加価値）から分配された給与や企業の利潤などは、県民所得として把握されます。

県民所得は、次のような項目から構成されています。

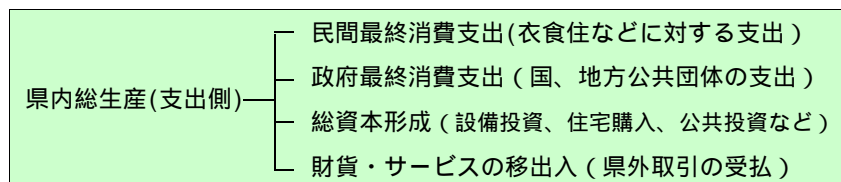


この県民所得をみることによって、県内総生産から振り分けられた給与や企業利潤などの分配構造や所得水準が分かります。

一人当たり県民所得 ... 県民所得を県総人口(10月1日現在)で割ることで求められます。県民所得には企業利潤といった賃金以外の項目が含まれていることから、賃金水準とは異なる地域経済の総合指標といえます。

支 出 面

雇用者の賃金や企業の利潤が消費、投資として向けられた需要は県内総生産（支出側）として把握されます。



県内総生産（支出側）をみることで、民間部門や公的部門の消費・投資活動の推移が分かるほか、県外との経済取引状況が分かります。

[県内ベースと県民ベース]

県内総生産（生産面、支出面）と県民所得（分配面）は、計数が一致しません。

それは、県内総生産が県内ベース（県内の経済活動を、それに携わった者の居住地を問わず把握する）であるのに対し、県民所得は県民ベース（どこで経済活動をおこなったかに関わらず、それに携わった者の居住地で把握する）であることによります。

その他にも、県内総生産には減価償却費などが含まれているが、県民所得ではそれらを控除しているなどの相違があります。

県民経済計算の詳細な解説については、134頁以降の「5 県民経済計算の概念と構成」に掲載していますので、ご活用下さい。

